

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内経済は、弱めの動きとなっている。

最終需要の動向をみると、住宅投資が前年を上回ったものの、公共投資が低調に推移しており、個人消費も弱めの動きとなっている。この間、設備投資は、計画を下方修正する動きが広がってきており、投資スタンスも慎重化している。

こうした中、生産は低下傾向にあり、雇用情勢は厳しさを増している。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、弱めの動きとなっている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、衣料品や身の回り品が低調に推移しているうえ、食堂・喫茶の売上げなども伸び悩んでいることから、前年を下回って推移している。

スーパーでは、節約志向の高まりによる内食回帰の動きや値上げによる単価の上昇から、食料品は前年並みの動きとなっているが、衣料品が不振なことから、前年をやや下回る動きとなっている。

(家電量販店売上高)

家電販売では、オリンピック需要の反動から、薄型テレビやDVDの売上げが鈍化しているほか、冷蔵庫、洗濯機などの白物家電も節約志向から買い換え需要が弱まっており、前年並みの動きとなっている。

(新車登録台数)

9月の新車登録台数は、貨物車が低調なうえ、普通車を中心に乗用車も前年を割り込んだことから、全体でも前年を下回った。

(2) 公共投資

9月の公共工事請負金額は、6ヶ月連続して前年を下回った。上半期累計では、前年度比12%の減少。

(3) 住宅投資

8月の新設住宅着工戸数は、改正建築基準法施行の影響で大きく落ち込んだ前年の反動を主因に、2ヶ月連続して前年を上回った。

(4) 設備投資

2008年度上期の設備投資計画(9月短観調査結果)をみると、受注の減少や収益の悪化を背景に、製造業を中心に投資の絞込みや先送りの動きが広がっており、前年度をやや下回る動きとなっている。

08/上期計画前年度比：製造業 +2.1% < 前回調査比修正率 31.6% >、非製造業 42.8% < 同 5.1% >、全産業 2.7% < 同 30.4% >)

3. 生産動向

生産は、低下傾向にある。

(電子部品類)

電子部品・デバイスでは、欧米向けの需要は減少しているものの、中東や新興国向けの需要が伸びていることから、ほぼ横這いで推移している。

(輸送機械)

完成車は、米国の自動車需要は落ち込んでいるが、燃費の良いコンパクトカーへの需要は高まっていることから、横這い圏内で推移している。一方、自動車部品は、新興国向けの需要堅調を背景に高操業が続いている。

(一般機械)

建設機械部品は、新興国向けを中心に堅調に推移しているが、半導体製造装置が減産体制を続けているほか、工作機械も欧米向けの受注鈍化などから生産を抑制している。

(その他)

鉄鋼の線材は、自動車向け需要に支えられ、高操業を続けている。一方、窯業・土石、木材・木製品は、公共工事の減少などから低下傾向にある。食料品では、清涼飲料が堅調に推移しているほか、缶詰もほぼ横這いで推移している。

4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、8月の有効求人倍率（季節調整値）は0.56倍（前月：0.59倍）と4ヶ月連続して低下したほか、新規求人倍率（同上）も0.82倍（前月：0.93倍）と前月比大幅に低下した。

この間、雇用者所得は、常用雇用者数が前年割れを続けていることから、前年を下回って推移している。

5. 企業倒産

9月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数12件（前年同月6件）、負債総額21億円（同17億96百万円）と、倒産件数は、2ヶ月連続の2桁台。

6. 金融面の動向

預金動向をみると、法人預金が前年を下回っているものの、個人預金が増加していることから、全体では前年を上回って推移している。

一方、貸出動向は、住宅ローンは頭打ちになっているものの、素原材料価格の高騰による運転資金需要がみられ、法人向けが上向いているうえ、地公体向けも増加していることから、全体では前年を上回って推移している。この間、貸出金利は、緩やかに上昇している。

以 上

| |
|---|
| 本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） http://www3.boj.or.jp/morioka/ |
|---|